

人工妊娠中絶を受けた女性の こころのケアに関するアンケート(術後)

このアンケート調査は、厚生労働省の委託を受け、人工妊娠中絶を受けた女性の心の健康に関する実態を把握し、望まない妊娠に悩む女性の心のケアのあり方に役立つための基礎資料を得て、人工妊娠中絶を受けた女性のための保健医療サービスに役立てていきたいと考えております。

アンケートは無記名となっており、ご記入の内容は統計的に処理され、調査結果は数字の形だけであつかわれますので、一人一人のご回答が他に漏れることはございません。調査データは上記目的以外にはいっさい使用いたしません。

どうかこの調査の趣旨を十分にご理解くださいます。少しでも多くの皆さまのご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

なお、本調査の内容に関わる照会先は以下の通りです。

自治医科大学産婦人科学講座 渡辺 尚
〒329-0498 栃木県河内郡南河内内町薬師寺 3311-1
TEL 0285-58-7376 (講座直通)

または、群馬大学医学部保健学科 常盤 洋子
〒371-8511 群馬県前橋市昭和町 3-39-22
TEL 027-220-7111 (代表)

【A】

..... 1 2 3 4 5

A01. あなたが、手術前後に、以下のような心配や不安を感じたとき、主治医や看護師、パートナーや家族に相談にのってもらったり援助してもらった経験について質問します。その経験の程度にあわせて、「1 全くなかった」は、「2 少しあった」、「3 時々あった」、「4 たくさんあった」、「5 非常にたくさんあった」のうち、一つに○をつけて下さい。

2) パートナーとの関係で問題を感じたとき、
a. 主治医に相談に乗ってもらったり援助してもらったことが

..... 1 2 3 4 5

c. 主治医以外の医師に相談に乗ってもらったり援助してもらったことが

..... 1 2 3 4 5

d. 看護師に相談に相談に乗ってもらったり援助してもらったことが

..... 1 2 3 4 5

e. パートナーに相談に乗ってもらったり援助してもらったことが

..... 1 2 3 4 5

f. 実母に相談に乗ってもらったり援助してもらったことが

..... 1 2 3 4 5

g. きょうだいに相談に乗ってもらったり援助してもらったことが

..... 1 2 3 4 5

h. 友人・知人に相談に乗ってもらったり援助してもらったことが

..... 1 2 3 4 5

j. 職場の人または学校の先生に相談に乗ってもらったり援助してもらったことが

..... 1 2 3 4 5

1) 人工妊娠中絶がからだに与える負担について知りたいとき、

a. 主治医に相談に乗ってもらったり援助してもらったことが

..... 1 2 3 4 5

c. 主治医以外の医師に相談に乗ってもらったり援助してもらったことが

..... 1 2 3 4 5

d. 看護師に相談に相談に乗ってもらったり援助してもらったことが

..... 1 2 3 4 5

e. パートナーに相談に乗ってもらったり援助してもらったことが

..... 1 2 3 4 5

f. 実母に相談に乗ってもらったり援助してもらったことが

..... 1 2 3 4 5

g. きょうだいに相談に乗ってもらったり援助してもらったことが

..... 1 2 3 4 5

h. 友人・知人に相談に乗ってもらったり援助してもらったことが

..... 1 2 3 4 5

j. 職場の人または学校の先生に相談に乗ってもらったり援助してもらったことが

3) 人工妊娠中絶について情報や助言がほしいとき

a. 主治医に相談に乗ってもらったり援助してもらったことが

..... 1 2 3 4 5

c. 主治医以外の医師に相談に乗ってもらったり援助してもらったことが

..... 1 2 3 4 5

d. 看護師に相談に乗ってもらったり援助してもらったことが

..... 1 2 3 4 5

e. パートナーに相談に乗ってもらったり援助してもらったことが

..... 1 2 3 4 5

f. 実母に相談に乗ってもらったり援助してもらったことが

..... 1 2 3 4 5

g. きょうだいに相談に乗ってもらったり援助してもらったことが

..... 1 2 3 4 5

h. 友人・知人に相談に乗ってもらったり援助してもらったことが

..... 1 2 3 4 5

j. 職場の人または学校の先生に相談に乗ってもらったり援助してもらったことが

..... 1 2 3 4 5

4) 自分の健康状態（体調が悪いなど）のことで気になることがあったとき、

a. 主治医に相談に乗ってもらったり援助してもらったことが

..... 1 2 3 4 5

c. 主治医以外の医師に相談に乗ってもらったり援助してもらったことが

..... 1 2 3 4 5

d. 看護師に相談に乗ってもらったり援助してもらったことが

..... 1 2 3 4 5

e. パートナーに相談に乗ってもらったり援助してもらったことが

..... 1 2 3 4 5

f. 実母に相談に乗ってもらったり援助してもらったことが

..... 1 2 3 4 5

g. きょうだいに相談に乗ってもらったり援助してもらったことが

..... 1 2 3 4 5

h. 友人・知人に相談に乗ってもらったり援助してもらったことが

..... 1 2 3 4 5

j. 職場の人または学校の先生に相談に乗ってもらったり援助してもらったことが

..... 1 2 3 4 5

【B】

次の質問に対して、現在のあなたに最も当てはまると思われる答えの数字に○をつけてください。

B01. 近ごろ元気がないですか。

①はい ②どちらでもない ③いいえ

B02. 人生が悲しく希望が持てないですか。

①はい ②どちらでもない ③いいえ

B03. いつもおもしろくなく気がふさぎますか。

①はい ②どちらでもない ③いいえ

B04. 会合に出席していてもいつも孤独を感じますか。

①はい ②どちらでもない ③いいえ

B05. ひとりぼっちだと感じることはありませんか。

①よく ②ときどき ③いいえ

B06. 人に会いたくないときがありますか。

①よく ②ときどき ③いいえ

B07. ひげ目を感じることはありませんか。

①よく ②ときどき ③いいえ

B08. ゆうつなときがありますか。

①よく ②ときどき ③いいえ

B09. 自分の生き方はまちがっていたと思いま

すか。

①よく ②ときどき ③いいえ

B10. 近頃何かにつけて自信がなくなってきましたか。

①はい ②どちらでもない ③いいえ

【C】

医師に相談することについて、あなたの気持ちについて一番よくあてはまると思う答の数字に○をつけてください。

「1 まったくあてはまらない」、「2 あまりあてられない」、「3 どちらともいえない」、「4 ややあてはまる」、「5 とてもあてはまる」のうち、一つに○をつけてください。

C01. 医師に相談したら、手術あるいはその後の回復に悪い影響が出る
..... 1 2 3 4 5

C02. 医師は私が相談した問題を解決できない
..... 1 2 3 4 5

C03. 医師は私が相談した問題を理解してくれない
..... 1 2 3 4 5

C04. 医師に相談したら「能力が低い人間だ」と思われる
..... 1 2 3 4 5

C05. 医師は、医療者なので、人工妊娠中絶を受けた女性の問題は理解できない
..... 1 2 3 4 5

C06. 医師に相談したら、私のことを「自分で問題を解決できない弱い人間だ」と思われる
..... 1 2 3 4 5

C07. 医師に相談したことについて秘密が守られるかどうか心配だ

..... 1 2 3 4 5

C08. 医師に相談していることを、私の友達が知ったら、私は友達を失う
..... 1 2 3 4 5

C09. 私は、医師に相談にのってもらった価値のない人間だ
..... 1 2 3 4 5

C10. 医師に相談したら、わたしは問題のある女性だと思われる
..... 1 2 3 4 5

C11. 医師に相談したら、特別扱いを受ける
..... 1 2 3 4 5

C12. 小さな問題で医師に相談するのは申し訳ない
..... 1 2 3 4 5

C13. 医師は忙しいので、わたしの相談のための時間をとらせてしまうのは申し訳ない
..... 1 2 3 4 5

C14. 医師にわたしの問題をうまく伝えられるか心配だ
..... 1 2 3 4 5

C15. 医師に相談すると何でも聞かれそうで嫌だ
..... 1 2 3 4 5

C16. 医師に相談すると、わたしが、言いたくないことまでいわれそうで心配だ
..... 1 2 3 4 5

C17. もし、医師に相談して、医師から怒られたり、注意されたとき、どうしたら良いのかわからない
..... 1 2 3 4 5

【D】

看護師に相談することについて、あなたの気持ちについて一番よくあてはまると思う答の数字

字に○をつけてください。

「1 まったくあてはまらない」、「2 あまりあてらない」、「3 どちらともいえない」、「4 ややあてはまる」、「5 とてもあてはまる」のうち、一つに○をつけてください。

D01. 看護師に相談したら、手術あるいはその後の回復に悪い影響が出る……………

1 2 3 4 5

D02. 看護師は私が相談した問題を解決できない

…………… 1 2 3 4 5

D03. 看護師は私が相談した問題を理解してくれない

…………… 1 2 3 4 5

D04. 看護師に相談したら「能力が低い人間だ」と思われる

…………… 1 2 3 4 5

D05. 看護師は、医療者なので、人工妊娠中絶を受けた女性の問題は理解できない

…………… 1 2 3 4 5

D06. 看護師に相談したら、私のことを「自分で問題を解決できない弱い人間だ」と思われる

…………… 1 2 3 4 5

D07. 看護師に相談したことについて秘密が守られるかどうか心配だ

…………… 1 2 3 4 5

D08. 看護師に相談していることを、私の友達が知ったら、私は友達を失う

…………… 1 2 3 4 5

D09. 私は、看護師に相談にのってもらえない人間だ

…………… 1 2 3 4 5

D10. 看護師に相談したら、わたしは問題のある女性だと思われる

…………… 1 2 3 4 5

D11. 看護師に相談したら、特別扱いを受ける

…………… 1 2 3 4 5

D12. 小さな問題で看護師に相談するのは申し訳ない

…………… 1 2 3 4 5

D13. 看護師は忙しいので、わたしの相談のための時間をとらせてしまうのは申し訳ない

…………… 1 2 3 4 5

D14. 看護師にわたしの問題をうまく伝えられるか心配だ

…………… 1 2 3 4 5

D15. 看護師に相談すると何でも聞かれそうで嫌だ

…………… 1 2 3 4 5

D16. 看護師に相談すると、わたしが、言いたくないことまでいわれそうで心配だ

…………… 1 2 3 4 5

D17. もし、看護師に相談して、看護師から怒られたり、注意されたとき、どうしたら良いのかわからない

…………… 1 2 3 4 5

【E】

次にあなた自身について質問します。次の項目を読んで、あなたに最もあてはまる数字に○をつけて答えて下さい。

「1 まったくあてはまらない」、「2 あまりあてらない」、「3 どちらともいえない」、「4 かなりあてはまる」、「5 非常にあてはまる」のうち、一つに○をつけてください。

E01. 私は自分に満足している

…………… 1 2 3 4 5

E02. 私は自分は全くだめな人間だと思うこと

がある

..... 1 2 3 4 5

E03. 私はいろいろな良い素質を持っている

..... 1 2 3 4 5

E04. 私は物事を人並み（人と同じくらい）には、うまくやれる

..... 1 2 3 4 5

E05. 自分には、自慢できるところがあまりない

..... 1 2 3 4 5

E06. 何かにつけて（いろいろな場面で）、自分は役に立たない人間だと思う

..... 1 2 3 4 5

E07. 私は少なくとも人並み（人と同じくらい）には価値のある人間である

..... 1 2 3 4 5

E08. 私は自分自身をもっと尊敬できるようになりたい

..... 1 2 3 4 5

E09. 私は自分を敗北者はいぼくしやだと思ふことがよくある

..... 1 2 3 4 5

E10. 私は自分に対して肯定的である（それで良いと思う）

..... 1 2 3 4 5

ご協力に心より感謝申し上げます。
ありがとうございました。

(3) 思春期妊娠への支援・実践レポート

村口きよ女性クリニック

橘 寿好

村口喜代

1、当クリニックにおける思春期妊娠への支援システム

当クリニックでは人工妊娠中絶手術を受ける患者に対しては、一人の助産師あるいは看護師が一貫して関わるプライマリー・ナーシングをおこなっているが、とくに中・高校生の思春期患者に対しては、さらにカウンセリングスキルを備えた思春期相談員を特別に配置している。

心身ともに未成熟な思春期女子にとって、予期せぬ、突然の妊娠は容易ならざる事態である。妊娠をどう受け止めるか、産むか中絶かか意思決定もできず、パートナーとの間の考えの違いもあり、親に話せない・相談できないことも多く、また相談できても意見の衝突・対立することもあり、最終的には本人自身の判断・意思決定を優先することとはいえ、その過程には幾多の困難があり、けっして平坦な経過ではない。

当クリニックでは、思春期妊娠に対する支援の基本理念として

患者自身が

- 1) 妊娠継続か中絶かか意思決定をする
- 2) 中絶を選択したことを納得し、受容する
- 3) 今後の避妊について主体的に考える
- 4) 自らの性を受容することを通して自己を肯定的に捉える

5) パートナーとの関係性を見つめ直し、自分の意思と相手を尊重することのバランスを自覚する

6) 今回の経験を今後の人生の生きるための力にする
以上を目標としている。

2、思春期妊娠症例報告（後述）

今回これまでに扱った思春期妊娠57症例のうち、相談員にとって印象深かった5症例についてカウンセリングの実際の経過を詳細に報告する。

- 1) 出産を希望した二人とそれを反対した母親との間での思考・意見調整に苦慮した症例
- 2) 屈折した心の成熟を背景に妊娠を繰り返した症例
- 3) 出会い系サイトで知り合った男性と不本意な妊娠に至った症例
- 4) 親に打ち明けられずに中絶、その後ピルを選択できなかったが、後日 EC ピルに救われたと思われた症例
- 5) 出産希望のパートナーに中絶の意思を伝えられずに相談員が介入した症例

3、思春期以降の妊娠症例報告（後述）

- 1) 失敗を教訓にできずに中絶を繰り返した症例

- 2) 不徹底な避妊によって妊娠に至り、その失敗が、今回の支援が、それぞれの意識や考えを教訓とできた症例
え・生き方、関係性への問い直し、変容への
- 3) パートナーまかせの関係を反省し、積極的に動機付けになった。カウンセリングの後に避妊を考えピルを選択した症例
ルや EC ピルを希望したケースや電話での避
- 4) 思春期妊娠中絶を経験しながらも、その後中妊相談などもあり、彼女達が安心して相談で絶を繰り返し、避妊への意識変容が図れなかったとき、心の支えとなる受け皿を提供できたこと
の意味は大きかった。

4. まとめ

思春期妊娠、思春期以降の症例について報告をしたが、年齢を問わず女性の避妊への意識は甘く、それによって引き起こされる妊娠・中絶手術は重い課題として提起されている。男女共同参画社会基本法が成立したものの、今日の日本社会全般に見られる男性主導の社会体制、男女の生き方の根は深く、その関係性が未だそのまま性の場面にも投影されている。今回報告した症例すべてにおいて共通することは、避妊が男性主体で行われており、女性もそれを安易に受容しているということである。性は女性にハンディがあり、女性の主体性・性の自己管理能力が求められることではあるが、避妊の技法的伝達などだけではその実現は難しく、男女の生き方、関係性そのものを問い直していくための課題が大きいのである。

思春期妊娠においては、突然の妊娠をいかに受容していくか、同時に限られた時間内に妊娠の継続か中絶かの選択・意思決定を迫られており、さらにパートナーとの関係、親との関係での折り合いをつけていかななくてはならず、そのためには特別の支援体制が求められる。また、中絶手術後の避妊指導および、パートナーや親との関係改善を図り、本人の意識・行動変容を促す課題が重要であり、医療機関での取り組みの限界を見る。しかしな

～思春期妊娠症例～

出産を希望した二人とそれを反対した母親との間での思考・意見調整に苦慮した症例

本人：16歳 高校2年生

パートナー：17歳 高校中退（親の経営する工務店に勤務）

交際期間：1年間

家族：本人一両親と弟（14歳）妹（13歳） パートナー一両親

妊娠覚知：2週間ほど前（本人が市販の妊娠検査薬で検査し、陽性反応が出る）

本人の性行動：初交年齢 14歳 過去の交際人数 10人 普段の避妊法一膣外射精

経過

初診 平成14年4月10日

妊娠8週

二人で出産を希望し、それに反対する母親と3人で来院する。二人の出産への意思は固く、双方対立した状態で受診した。

パートナーは昨年高校を中退したばかりで現在は親の工務店を手伝っている。二人とも、今年の夏ごろからシンナーを常用していた。またパートナーはシンナーを使用していたために転倒し、両腕を骨折しており、受診の際は休職中であった。本人は夏ごろからパートナーの実家に泊まるようになり、出席日

数の不足とシンナーの問題も加わって今年度は留年となりかけた。しかし担任の計らいで何とか進級することができ、ひと安心という矢先に妊娠が発覚した。留年問題を何とか乗り越えた直後であったにもかかわらず、出産のためには高校退学も辞さないと思気込み、加えてパートナーの両親が出産を推したことが二人の気持ちに拍車を掛けた。パートナーの両親は「こういうことを通して人は大人になる」と二人を応援し、そのためには自分たちは全力を尽くすと話したようだった。しかし本人の母親が出産に反対したことから意見がまとまらず、衝突した。この日、本人は相談員に対しても反抗的な態度でカウンセリングに臨み、周りからのどのような言葉も受け入れる気持ちはないといった雰囲気であった。パートナーは比較的静かであり、本人が産みたいというならば、本人の気持ちを尊重しようといったような姿勢であった。しかし、本人の母親はひどく興奮気味であったため、本人たちと母親と別々にカウンセリングを行った。

本人たちとのカウンセリング

本人たちは出産に対して「かわいそうだから産みたい」と考えており、生まれた子供のかわいさからどんな苦勞でも乗り越えられると捉えており、また出産・育児全般に双方の両親から援助を受けることは大前提のこととして考えてもいた。二人の将来の夢は、二人でアパートを借りて生活することだと話し、日々の生活の中に何か取り立てて興味や目標があるわけではなく、日常の充実感のなさからシンナーの常用へ傾倒してしまった心の寂しさが見て取れた。本人は出産のためには退学はやむを得ないと考えており、「ではなぜ先月の学期末には進級を望んだ

のか」という問いに、友人の多くは高校を退学しており、彼女たちは充実感、忍耐力、社会適応力が欠けた生活を送っているため、そういった人間にはなりたくなかったと話した。そのような考えは大切であり、そのためにつらいことはあっても自分の身を律して行くことは重要であり、その決定に自信を持つべきだという話をした。

母親とのカウンセリング

母親は、共働きのためこれまでのしつけは不十分であったと話した。付き合う友人については忠告してきたが、本人がシンナーに手を出し退学の話が出て、正面切ったの親子の向き合いができなかったと反省していた。妊娠の問題はいずれはと案じていたが、このような結果となり残念なことであったと話した。母親は娘の出産に危機を感じており、どのように説得して思いとどまらせることができるか、と相談員に詰め寄りもした。一方で本人の父親は、昨晚突然妊娠を告げられたばかりで、まだはっきりと意図表示をしていないということであったので、今後の父親の関わり方が大きな鍵であるのではという提案をした。

最後に

この日のそれぞれの様子から、全員が参加した話し合いが必要であることを伝え、同時に本人たちからも双方の親と一緒にカウンセリングを受けたいという希望があったため、この日のカウンセリングを終了し、次回へ持ち越した。

第2回カウンセリング 4月12日

本人とパートナー、本人の母親、パートナーの母親の4人で来院した。

この時点でも本人の出産への意思は変わら

ず、対立状態のままであった。母親はこの数日間、思いつく限りの手段を駆使して本人の説得にあたり、疲労困憊の様子であった。父親は出産には反対だと本人に伝えたが、本人の気持ちは変わらなかったとの報告を受けた。母親は、本人を育児院へ見学に連れて行き、親の愛情を受けることのできなかった子供たちや、虐待を受けた子供たちがいることを理解させようと、現実の厳しさを教えようと試みたが、本人はますます意固地になるだけであった。パートナーは相変わらず口数は少なく、またそのパートナーの母親も意見に変更はなかった。

すでに聞く耳を持つ余裕のない本人たちに、相談員はあえて中立の立場を主張しつつも、あらためて出産のすばらしさと子供のかけがえのなさを話し、同時に、子育ての厳しさについても説明をした。特に、本人が育児院で目にした子供たちの親は、虐待などの問題を予想して出産したわけではなく、誰もが育児の困難にぶつかる可能性を持っているのだという話をした。また、出産によって親の生活が一変することを話し、大人として責任を持って子供を育てる重要さを改めて問い直した。その後、パートナーの母親も「出産をするもしないも最終的には本人次第だ」という発言をするようになり、ますます本人は孤立したように見えた。

この日も最終的な結論は出せずにカウンセリングを終了し、先の見通しのないまま帰院を促した。だがその帰宅途中で、本人が出産を考え直すような発言をみせたとのことで、母親が急ぎよ駐車場から舞い戻り、次の来院の予約を取った。

第3回カウンセリング 4月15日

本人とパートナー、本人の母親と受診。

この日は本人の口からはっきりと中絶への希望を聞いた。落ち着いて心からその決定を受容していた。パートナーも本人の母親も同様であった。本人は、将来周りに祝福されて出産するためにも、今はこのまま通学を続け高校を卒業すると話した。

手術当日 4月16日

手術当日は、本人は晴れ晴れとした顔をして相談員の前に座り、その決定に迷いが無いと話した。手術そのものへの不安もなく、問題なく手術は終了した。

術後指導 4月23日

手術への後悔はなく、すべてが終わり「安心した」ということであった。

「自分にとって一番いいセックスとは?」、「相手との望む関係は?」、という相談員の問いかけから自分たちの今までの生活を振り返り、さらに今後の生活を再考するヒントを得られた様子だった。また、避妊指導では本人以上にパートナーが真剣に話に聞き入るなど、再発防止に積極的な姿勢で、特にパートナーはピルの使用にも興味を持ったようであった。金銭的に難しいという本人の意見でピルの使用を断念し、今はコンドームでの確実な避妊が必要だという理解を得た。

まとめ

- ・ 本人の出産への主張はあまりにも浅はかであり、周りへの反抗とも見て取れる心許ないものであった。時には大人を黙らせるほどの巧みな言葉を使って反発を続けるものの、その過程で次第に孤立し、また本人がいっそう意固地になっていく

悪循環は危なげであった。

- ・ 相談員があくまで中立の立場で接したことから、出産を選択することの現実の厳しさが本人に伝わり、最終的には自分の意思で中絶を選択することができた。
- ・ 母親は今回の騒動を通じて、今まで避けてきた子供との正面切ったの話し合いに苦しんだ様子であったが、結果として親子としてのかかわり方を問い直す契機となり、有意義な時間であったという感想を聞くことが出来た。

屈折した心の成熟を背景に妊娠を繰り返した症例

本人：18歳 高校3年生（卒業）

パートナー：16歳 高校2年生 同じ高校

交際期間：10ヶ月

家族：本人一両親 兄（20歳）

本人の性行動：初交年齢 17歳 過去の交際相手一なし

普段の避妊方法：コンドーム

妊娠の自己覚知：1ヵ月半ほど前（市販の妊娠検査薬で陽性反応）

経過

初診 平成14年3月12日

妊娠8週4日

本人と母親の二人で来院する。4月から大学進学予定であり、高校を卒業したばかりであった。

本人とのカウンセリング

中絶を希望して来院するが本人の様子はとても拒絶的であり、こちらを敵視したともいえる様子であった。口数は少なく声も小さかった。質問に対して返答しないこともあり、

口を開いても攻撃的な様子であった。妊娠については「中絶が原因で進学できなくなってそれではしかたがない」と投げやりであった。その一方で、妊娠を自覚してから当クリニックを受診するまで1ヵ月半ほどの時間がたっており、現実と向き合えなかった弱気な気持ちを率直に認めた。しかし、母親に付き添ってもらったのは親の同意が無くては手術を受けられないと考えていたからだとし、母親を「あの人」と称して邪険に扱い、親からの心の支えは全く必要ないと話した。また、相談員が母親とカウンセリングをすることについては「よけいなことは話さないで」と冷淡な指示を出し、異常ともいえるほどの本人の態度であった。また、パートナーの来院を拒否し、その存在にも否定的であった。とはいえカウンセリングの最中に我慢し切れなかったのか涙を流しましたが、固い心をいっこうに解こうとはしなかった。

一見、自立した責任感の強いタイプであるように思われたが、同時に極端に幼稚な心も垣間見られ、相談員にもいっこうに心を開こうとしなかった。

母親とのカウンセリング

本人の態度に反して母親は実に落ち着いており、娘の今回の件を全面的に受け入れているようであった。母親の話しでは本人は涙を流し、素直に心の不安を打ち明けたとすることで、相談員は解せない思いを抱いたほどであった。しかし、その後の母親からの話しからその理由についておおむね察することができた。

本人は中学の頃に気弱な友人をかばったことからいじめられ続け、結果的に周りにいる大人は教員さえも信用しない、孤独な学校生活を送っていたことがわかった。また家庭

では、父親は単身赴任であり、母親は、看護師の仕事をしつつ一人で家庭を切り盛りしていたため、長男にかかりきりとなってしまう本人に十分な注意を払わなかったと話していた。しかし本人が相談員に見せた異常ともいえる態度を母親が充分理解しているとは思えなかったが、母親は娘の妊娠でかなり打ちひしがれた様子であったため、そのことを伝えることを断念した。

手術当日 3月18日

母親に付き添われて来院する。この日もいっさい心を開かず、手術への不安も口にはせず、そのまま処置に入った。

母親の話では本人はその後、落ち着きを見せ、当日の朝も母親と普通に会話を交わしていたということであった。

しかし、看護師の「母親はついて来たのか、それともついて来てもらったのか」、という問いかけに対して、不安げに「…両方」と答えており、さすがに自分の揺れる心を隠せずにいたようであった。手術前には持参の小説を読むなどをして特に取り乱すようなことはなかった。

手術後はこちらが驚くほどすっきりとした表情を見せ、相談員との会話も穏やかで笑い顔を見せるなど、まるで別人のようであった。

術後指導 3月26日

この日の来院でも再度本人は頑なに心を開かず、パートナーと二人でのカウンセリングを拒否した。こちらからの質問には全く反応が無く、避妊指導を受けることへの意思表示もなかった。仕方なく、一方的に避妊指導を進めたがその最中も聞いているのかどう

か本人の参加意欲が一切見られなかったため、避妊指導を中断し、なぜそこまで拒絶的かつ攻撃的であるのか、また、避妊指導を受けることを望んでいるのか、という質問を投げかけた。思春期であってもセックスの自由と権利はあるが、同時にその結果への責任があるという相談員の意見を述べながら、この場は義務ではなく任意であること、などを話し、本人の考えを求めた。それに対して、「何か話せば必ずそれを否定するのが大人だ」と本人が抱く大人への不信感を口にし、はなから大人の支援に期待はしていないという意思を初めてあらわした。そのため当クリニックでは中絶の是非は誰にも問うことはしていないことを再度強調し、一連の本人の態度には理解の限界があることを伝え、その日のカウンセリングは終了した。

2度目の妊娠

パートナー：19歳 大学生 同じ学科、同じサークルの同級生

交際期間：3ヶ月弱 普段の避妊法：
回答なし（膈外射精と予想される）

受診 平成15年7月30日

妊娠8週

4ヵ月後の2度目の妊娠となった。今回は母親に話さず、しかし前回と同様、本人は再び固く口を閉ざし、かつ、攻撃的な視線で構えていた。パートナーは変わっており、前回のパートナーとはその後のすれ違いと相手の頼りない性格に落胆し、別れていた。相談員は、その後どうしているのか気に掛かっていたとこちらの気持ちを伝えつつ、他愛もない話題で本人の様子を見たが相変わらず心を開こうとしないため、このクリニックに何

を求めて来院したのかと率直に尋ねた。他院を紹介することも可能であること、さらに、カウンセリングなしで、手術だけを行うことも可能であることも伝えた。それに対して本人はそれまでの態度から一変して堰を切ったように涙を流し、しばらくの間泣き続けたため、何を求めて再度受診したのか、なぜカウンセリングを拒否しなかったのかという核心については追求を避けた。そうこうしながらも、新生活についての質問や新しい彼との関係についてなどの気楽な話しには徐々に口を開くようになり、次第に微笑む様子も見られるようになった。本人は楽しく大学生生活を送っており、サークル活動や授業にも熱心であること、またアルバイトを二つ掛け持ちし、夏休みの今は自動車学校に通って忙しい毎日を過ごしていることを話し、新しいパートナーとはいい関係を持てていることなども話した。

2度目の妊娠をたしなめられると思い虚勢を張ったのか真相はわからないが、結果としてこの日のカウンセリングは穏やかに過ぎ、何かを求めながらも素直になれず、すべてをさらけ出せない心の葛藤を見せた。2度目の妊娠ということだけでなく、母親への罪悪感や彼にしか頼れない寂しさを乗り越えていかなければならない彼女の心の負担を思いつつ、過ちを肥やしにして前に進む力を身に付けてほしいという話しをし、彼女の同意を得ることができた。

手術当日 8月12日

一人で来院する。パートナーはクリニックの外まで本人を送り、手術が終了した後再び迎えに来させるように本人が希望したとのこと。本人は最初はまだこちらの様子をうか

がっているようにも見て取れたが、徐々に打ち解けた。

看護師とのやり取りでも本人から甘えるようになり、ベット上でもまるっきり別人のようで、声のトーンまで小さく高くなった。

術後指導① 8月26日

術後の診察のため一人で来院。パートナーは事情で帰省しており、二人揃っての避妊指導を延期してほしいという依頼があった。前回とは異なり本人が自ら避妊指導を希望したため、その意思を尊重し、後日予約を取り直すこととした。この日の様子は落ち着いており、少々甘えて明るく話しをし、安心して接することができた。他愛もない話から残りの夏休みを心置きなく楽しんでいる様子がうかがえ、避妊指導に期待を持っていると話してきた。

術後指導② 9月22日

約1ヵ月後の来院であり、初めてパートナーが付き添った。パートナーは初めての産婦人科だったため緊張した様子を見せてもいたが、きちんと挨拶をしてテーブルに着き、相手に中絶手術を受けさせてしまったことへの複雑な思いや罪の意識、浅はかな避妊への後悔などを述べた。その様子から順調に指導が進むかと思われたが、パートナーが同席しているためか本人の様子が再び反抗的、かつ意思表示が乏しくなり、こちらを斜に構えて見つめるなどの態度が再び繰り返され、会話のやり取りも滞ってしまった。仕方なく指導を中断して率直に今の本人の気持ちを確認したが、それについても一切返答は無く、本人は手を前に組んで斜めに睨み付けているだけであった。避妊指導は義務ではないこ

とを再度伝え、帰院を促さざるを得なかった。しかし、パートナーはそういった冷ややかな雰囲気や、時折り照れ笑いを見せながらも、避妊や妊娠のメカニズムについて積極的に質問を投げかけてきた。その問答は1時間にも及び、避妊指導の内容をほぼ網羅したものとなったが、その最中も本人は一切口を開かずしかめっ面のまま、ただその場に座っているだけで、打ち解けた様子の彼とはとても対照的であった。

まとめ

- ・ 2度目の妊娠を引き起こしてしまった原因が何であったのか、明確化することができず客観的な反省につなげられなかった。
- ・ 1回目はうまくコミュニケーションを取ることができなかつたにもかかわらず、2度目の失敗にも再度受診をしてきたことから、1回目の支援が何らかの形で本人の心に届いていたと確信できた。
- ・ 長期のいじめによる孤立感、親の愛への渴望などを誘引とし形成されたと思われる屈折した自立心は、本人の心に大きな影を落としていた。うまく他人とかがわることができず、自分を素直に表現できない彼女とのカウンセリングは実に難しく、相談員として身に余る重いケースであった。

出会い系サイトで知り合った男性と不本意な妊娠に至った症例

本人：16歳 高校2年生

パートナー：19歳 社会人

交際期間：約5ヶ月前 出会い系サイトで知

り合う

家族：母親（43歳）兄（18歳）

本人の性行動：初交年齢14歳、過去の交際人数6人

普段の避妊方法：コンドーム

妊娠の認識：月経の遅れから妊娠を疑い、他院2ヶ所を受診する。費用が高額で納得がいかなかったために2ヶ所を受診して回った

経過

初診 平成14年3月26日

妊娠8週

伯母と兄、いここに付き添われて受診。パートナーとはこの時点ではすでに連絡がつかず、本人はショックで口数が少なく、落ち込んだ様子であった。パートナーとは約5ヶ月ほど前に知り合い、約1ヶ月間付き合ったが、最近よりを戻した。しかし本人はパートナーの住んでいる場所や仕事場も知らず、交際はとても曖昧なものであった。本人が妊娠を電話で告げると、その2時間後には携帯電話を解約したのか音信不通となり連絡が取れなくなった。本人の周りでは5~6人ほど中絶を経験した者がおり、彼女達から経験談として中絶についての話しを何度か聞いてはいたが、実際に自分の身に妊娠が起こると、そのことを受け止めきれず混乱状態となった。

また、自分の親には心配をかけたくないという理由で妊娠を伝えず、兄とその交際相手に打ち明けて協力を得て、2ヶ所の産婦人科を受診した。しかし手術費用が高額であったこと、自分達だけでは不安だという理由から、母親の姉に当たる伯母と従兄弟たちに打ち明けた。伯母は看護師で、彼女のアドバイスにより当院を受診した。

本人の両親は小学1年生のころ離婚をしており、そのための転校を機に学校に馴染めなくなり友人関係が滞った。中学2年生では不登校になり、問題行動があった。高校進学後も自分の意思を表すことが苦手で、何においても友人の意見に流される傾向にあり、それが伯母の日ごろからの心配事であった。来院時、本人は幼げであり、意思表示に乏しかった。すべての責任を逃げたパートナーに押し付け、自分は被害者であるといわんばかりの主張や、パートナーとのセックスは一度だけで相手本位のものであり、自分は望んでいたわけではない等と、言い逃れに必死であり、危険を承知で出会い系サイトにアクセスした自らの責任を反省する様子は見られなかった。

結局、伯母は母親にすべてを伝え、母親もきちんと今回の件を受け止め、本人の心をさらに刺激することを避け、中絶手術となった。

手術当日 3月29日

伯母に付き添われて受診する。母親は仕事のために来院できなかったようである。本人は相変わらず落ち込んでいたが特に不安を抱えている様子でもなく、無事に手術を受けることができた。

術後指導 4月5日

母親が付き添って来院した。母親は今回の件から、親として娘との付き合い方を反省したと話した。これまでの本人の生活が離婚のためだったとは考えたくないが、本人との向き合い方には足りないものがあった。今後の親子関係を改めたいということだった。相談員は本人に、犯人探しまがいの責任の擦り付

けや高校生のセックスの是非を問うことに惑わされずに、そもそも、自分が恋人や友人に何を求めているのか、どう付き合えるのかを明確すべきであったと問題提起をし、自分が望む幸せは何か、相手を思うことが自分を犠牲にすることではないと話した。

本人は中学3年のときに避妊などについての性教育を受けたが、その途中で気分が悪くなり話を聞き続けることができなくなったと話した。今回の避妊指導でもまともに話を聞けず、彼とのセックスの時にも何が起きているのかよくわからなかったという話もした。しばらくはセックスをするつもりはなく、今は避妊について学ぶ必要はないという気持ちだったため、彼女の心の傷に配慮して、最低限知っておかなくてはいけない知識を、無理のない程度に伝えた。

まとめ

- ・ 出会い系サイトで知り合った男性と曖昧な関係を持ってしまったために起こった今回の妊娠は、本人に大きな心の傷を残した。初交年齢が14歳と早熟であったが、本人は何を男性に求めているのか自覚しておらず、友人任せの日常を送り続けていた。
- ・ 衝撃的といえるパートナーとの関係、また、音信不通という事態から周囲が本人を過度に養護する姿勢がみられ、また本人もそれに甘んじてしまい、問題の核心を追求しにくくなっていった。
- ・ 本人は幼い頃の親との葛藤から自己を主張できず、希薄な人間関係に身を委ねてきた。時間の制限もありそうした心の状態に充分関わることはできなかったが、結果として本人も母親も落ち着いてこの

件を受け入れることができ、無事に手術となった。

親に打ち明けられずに中絶、その後ピルを選択できなかったが、後日 EC ピルに救われたと思われた症例

本人：16歳 高校1年生

パートナー：16歳 高校1年生

交際期間：1年間 中学時代からの付き合い

家族：本人-両親 兄（18歳 社会人）
パートナー-両親、姉が二人（社会人）

妊娠の自覚-9月8日 市販の妊娠検査薬にて陽性反応

本人の性行動：初交年齢 15歳。過去の交際人数 3人

普段の避妊法-コンドームと膈外射精

経過

初診 平成14年9月18日

妊娠7週

月経の遅れから、妊娠検査薬を購入し、陽性反応と出る。

普段の避妊はコンドームと膈外射精が中心だったが、一度コンドームの破損があった。

本人は将来保母を目指し、パートナーは高校がサッカーによるスポーツ入学のため何かと制約があり、中絶を希望した。心配をかけたくないという理由から両親には話をするつもりはなかった。しかし中絶費用が準備できず、本人の兄から協力を得た。兄と本人は仲がよく、理解があるということ、また、パートナーと兄とできちんと話し合いを持てたことから、本人は満足している様子だった。両親と本人とは特に目立った問題はなく、二人の交際についてはセックスを含めても

すでに理解があったが、かといって普段から何かを深く話し合うことはなく、妊娠を理解してもらえないだろうという不安があった。

以上の件を親友に相談に乗ってもらおうと打ち明けたが、偶然にもその友人にも妊娠が発覚したときであり、結局は二人で連れ立っての当クリニックへの受診となった。

手術日 10月1日

二人で来院する。本人はつわり症状のため、不安を訴えた。ラミセル挿入時に痛みが伴うという友人の話から、緊張した様子を見せていたが、術前のカウンセリングで少し落ち着いた様子だった。彼は、「今度の件を何とか乗り越えて行きたい」と話したが口数は少なかった。

手術後はすべてが終わったという安堵感をもらし、空腹を訴えた。

術後指導 10月9日

パートナーと二人で受診した。

中絶については悲しいことだったが仕方のない選択だったと振り返っており、妊娠を甘く考えていたことを反省した。そのため、その日の指導ではコンドームの使い方についても実際に自分で模型を使用して練習をするなど積極的な姿も見られ、問題はない様子だった。ピルについては自分たちにとってはまだ経済的にも負担が大きいと話し、今までの膈外射精中心の避妊を改めてコンドームの使用を決定した。

その後の受診 平成15年4月21日

コンドームの脱落のため、緊急避妊法の使用を希望して来院した。術後指導の際に緊急避妊法について学んでいたため、迷う

ことなくこの方法を選択することができたと話していた。しかしその時点でも低用量ピルについては高校生の自分には金銭的に時期尚早と考えていると話し、使用を選択しなかった。

手術後の振り返りについて

本人は手術後約1ヶ月はセックスに対して否定的であったが、パートナーの要求に促され徐々に普段の生活に戻れたと話す。今は問題はないが、妊娠に対しては以前よりも敏感に捉えていると話す。中絶についてはある程度の心の清算ができていよううで、手術を後悔するなど引きずっている様子は見られなかった。

EC服用その後

4月22日

ECの副作用から嘔吐があり、ECピルが作用しないのではないかと、という電話での問い合わせがあった。体質によってECピルを受け付けられないこともあるという話をし、もし妊娠となっていた場合には早急に受診するように話し、電話を切った。その後は何も連絡がないことから、妊娠はなかったのではないかと考えている。

まとめ

- ・ 患者やそのパートナーの周辺に中絶経験者がいることは最近では珍しくないが今回は親友が同時に妊娠するという事態となった。喜ばしくない事柄とはいえ、親の協力を得られないという状況の中では相談員の存在は大きく、本人たちにとって心の支えとなったようである。

本人は避妊に不安を抱きつつもその後もコンドームという男性主導の、信頼性の低い方法を選択した。避妊を経済的な問題と天秤に掛けざるを得ない現代の思春期の若者の価値観に変容を起こすことは容易ではない。しかし、その後のコンドームの脱落からECピルの使用を選択したことは避妊指導の成果と考えられるが、残念ながら副作用で嘔吐するという状態になってしまい、ECピルが彼女たちの避妊手段のリストから消えてしまったことで今後の避妊に不安が残った。

出産希望のパートナーに中絶の意思を伝えられずに相談員が介入した症例

本人：18歳 高校3年生

パートナー：20歳 社会人

交際期間：5ヶ月 友人の紹介で知り合う

家族：本人-両親と姉（20歳社会人）
パートナー-両親（兄弟については言及せず）

本人の性行動：初交年齢17歳。過去の交際人数3人

普段の避妊法-コンドームと膈外射精

妊娠の自己覚知（市販の妊娠検査薬を使用し陽性反応）

経過

初診 平成14年11月9日

妊娠4週

友人に付き添われて来院し、カウンセリングは一人で受ける。

高校の教員へ相談をし、当院を紹介され、受診した。教員は本人の予想を反して特に大きな問題としては扱わなかったという。

本人は出産に迷っていたが、パートナーが出産を強く望むために決定が下せず、また、

この状況を親には伝えられずに悩んでいた。

本人とパートナーの関係は良好であり、何でも話せる間柄であるという。

結局結論は出せずに、本人は曖昧な気持ちのまま一度目のカウンセリングを終え、帰院となった。

第2回カウンセリング 11月16日

本人とパートナー、本人の母親と3人で来院。最初は3人での話し合いを行った。本人はほとんど意見を言わず、反対にパートナーからは出産を希望する発言があった。母親からは今回の出産は不可能だという話があったが、お互いがそれぞれの顔色を伺っているようで、なかなか話はまとまらなかった。

帰院後にパートナーの両親を交えた話し合いをする予定があるということだったため、相談員はパートナー、母親、本人と個別にカウンセリングを行い、それぞれの意思を確認した。

本人とのカウンセリング

本人の意思を再度確認し、更にその理由について説明を求めた。また同時に、パートナーへ意思を伝えられない理由についても尋ねた。本人は出産と育児に大きな不安を抱えており、今の時点で出産は望めないことだと考えていながらも、出産を強く希望するパートナーとその家族の意思とのすれ違いから、自分の意思を伝えられず、もし無理に自分の意見を押し通してしまえば、パートナーは自分を拒否し、疎遠になってしまうだろうという恐怖心を強烈に抱いていた。しかしカウンセリングを通して、対等に意見を伝え合える、場合によってはどちらも譲歩できる関係が自分にとっての理想的な交際のあり方だと気付くことができた。また、本人は近い将来、

パートナーとの間の出産を希望しており、その意思に誇りを持てるように話しをした。

パートナーとのカウンセリング

社会人として安定した収入があり、出産と育児を受け入れられる自信があると話し、また、せっかくの自分の子どもを中絶させることはできない、と意思は固かった。出産を望まない相手の意向をどう受け止めるのかという質問にも、自分の支えがあれば多少のことではどうにでも乗り越えられると話し、まったく譲る様子は見られなかった。そのため出産の現実と、さらに本人には将来的な出産の希望があること伝えた。また、話しを通して自分の子どもの出産を拒否されることが自分自身の存在の拒否につながると感じていることが分かった。一方本人はパートナーを心から慕っているからこそ中絶を希望しながらも意思表示できないでいることを話し、理解を求めた。

母親とのカウンセリング

母親として、基本的には出産に反対ではないが、本人の意思に反する出産には否定的であった。個別のカウンセリングから、二人の気持ちの葛藤とすれ違いを話し、親として見守る大切さと、女性としての支えが必要ではないかという話しをした。母親は不安を打ち明けたことから落ち着きを取り戻し、これからの話し合いに穏やかな気持ちで挑めると話した。

第3回カウンセリング 11月17日

前回のカウンセリング後の話し合いで、本人は自分の意思をしっかりと伝えることができ、パートナーとその両親の理解を得られ、手術を決定した。

手術当日 11月19日

本人は落ち着いていた。パートナーは「残念なことには変わらないが、本人が望んで出産をすることが一番である」と考えられるようになったと話した。

術後指導 11月30日

術後指導ではパートナーとともに出席。双方、近い将来の結婚を考えながらも、今の時点では避妊が必要であることを自覚し、意欲的に避妊について学んでいた。その結果、避妊効果の高いピルを服用することを選択し、処方希望した。

その後

現在もピルを服用中であるが、手術から約4ヵ月後、本人の高校卒業と同時に結婚した。結婚後の現在もピルの服用を継続している。

まとめ

- ・ 本人は中絶への意思があるにもかかわらず、パートナーに嫌われることを恐れてきちんと向き合うことができずにいた。しかし、どちらかが犠牲になるのではなく、双方が歩み寄って納得できる決断を下せたほうが無理のない付き合いとなるのではないのかという相談員のアドバイスによって、本人は心に整理をつけ、パートナーに自分の意思を伝えられたと考えられる。
- ・ 相談員がパートナーと母親と個別に話し合うことで意見の不一致を調整でき、結果的にそれぞれが納得する決定を下すことができた。

～思春期以降の症例～

失敗を教訓にできずに中絶を繰り返した症例

本人：19歳 パチンコ店勤務

パートナー：20歳 警備員

交際期間：約5年 中学生のときからの交際

本人の性行動：初交年齢14歳 過去の交際人数1人

普段の避妊法：コンドームと膈外射精

状態：妊娠7週

妊娠の自覚：初診日より1週間前（市販の妊娠判定薬で陽性反応と出る）

既往：同じパートナーと3回の中絶歴あり

・ 1回目 平成12年10月 16歳
（高校2年生） 他院での手術

・ 2回目 平成13年 1月 16歳
（高校2年生） 当クリニックにて

・ 3回目 平成14年 2月 17歳
（高校3年生） 当クリニックにて

初診日 平成15年11月4日

パートナーの運転する車で来院。パートナーは車の中で待っているとこのことで、一人で来院した。前回の中絶後も当クリニックで避妊指導を受けたと話すが、その後も膈外射精を繰り返していた。過去3回の妊娠ではパートナーから産んで欲しいと言われたが、高校生だったこともあり中絶を選択した。初回のみ母親に相談し、費用を出してもらったが今回も含め2回目以降は親に言えず、パートナーと友人のみに相談していた。今回はお互い車を購入し、そのローンから経済的に余裕がなく、育児は不可能と判断し、中絶手術を決定した。この受診の際も給料日前であったため費用が工面できず、中絶代金を分割で支払

う申し出があった。それぞれ実家に住み、親と同居していたが、遠方のため早急に手術してほしいと希望し、翌日手術の運びとなった。手術当日 11月5日

予定より30分遅れてAM11:30頃来院した。手術直前4度目の中絶ということで複雑な思いが込み上げ、涙を流した。あまり自分から話をする雰囲気ではなく、こちらの質問に頷くか首を振るかの会話となった。手術は問題なく終了し、一週間後の避妊指導にはパートナーと二人で来るよう伝え、そのまま帰院となった。

過去の避妊指導から見る本人把握

当クリニックにおいて過去2回の中絶手術を受けており、いずれも避妊指導は受けている(うち1回は相手も同席)。カルテの看護記録の記載から、性周期、避妊についての知識が無く、2回目の指導の際にも「以前も聞いたが忘れた」と話した。その都度避妊に関する説明が行われたが、本人の「忘れた、覚えていない」との繰り返しの返答より、理解力の乏しさが感じられた。担当した看護師からも、「どの程度理解してくれたか心配」とのコメントがあった。2回目以降は強く毎回ピルを勧められていたが、「癌になるのが怖い、からだに悪そう、お金がかかる」という理由でピル服用を拒否した。しかし、その後の避妊に対しては不安を感じており、正しいコンドームの使用を徹底する意思を見せていたが、具体的にその装着時期や使用方法については毎回間違っていて認識しており、そのため実際に望まない避妊を繰り返した。回数を重ねて避妊知識を学び取るチャンスがあったにもかかわらず、本人は相変わらず曖昧な避妊への考えに止まっていた。

避妊指導 平成15年11月21日

手術の1週間後に予定していたが本人の都合によりキャンセルとなり、2週間以上経過後の受診となった。パートナーと二人で来院し、術後の経過は良好であった。

今回の中絶は2人の関係の間で問題となることはなく、いずれは結婚も考えているとのことだった。しかし、中絶の一番の理由は車のローンが残っているため経済的に思わしくないからとのことであった。「車を売るということも考えなかった？」と問うと、「売っても安くしかならないから…」とパートナーが答え、妊娠・中絶に対する安易な考えが伺えた。

4度目の中絶については「だめだと思う」と本人。「3回目中絶した後、最初のうちはコンドームを使っていたが、そのうち安易に思い、使わないでしまいました」とうなだれてパートナーが話した。

当クリニックにおいて過去2回避妊指導を受けているが、アンケート調査からも危険日、パール指数の認識が間違っており、再び基本的な性周期から各種避妊法の説明を行った。パートナーは本人に4回も中絶させてしまったことを反省しており、真剣に話を聞いて分からないことがあれば納得するまで質問するなど、意識の向上が伺えた。

その一方で、本人は意見を言うこともなく机に顔を埋めたり、時々笑ったりするなど集中しない動作が見られた。「自分のことなんだよ」と話し掛けても、照れてこちらの話を聞く態度を見せなかった。このままでは5度目の妊娠もありうると話してピルを勧めるが、本人は「身体に悪そうなので」と服用を拒否した。パートナーはそれについて本人を説得